

FD委員会便り

令和2年11月20日発行
新潟県立大学FD委員会

令和2年度FD研修会が下記の通り開催されました。

FD研修会「遠隔授業で主体的学びを促す方法 ～主体的学習分類別の指導方法～」

講師：白澤 秀剛 先生

日時：令和2年10月27日（火）13:00～14:30

場所：オンライン形式・ライブビューイング会場（1257講義室）

昨年度に引き続き、「アクティブ・ラーニングの教育効果測定（主体的学修のモデル化）」を専門的に研究されている東海大学情報教育センター専任講師 白澤 秀剛 先生から、遠隔授業の運営方法や対面授業時のフォローの方法などをご講演いただきました。

学修行動による主体性の分類については、昨年ご報告いただいた本学学生の分析結果を遠隔授業との関連で見直した特徴が示されました。それを踏まえて、遠隔授業という環境で主体的学習を促す方法が紹介され、最後に「成功の責任追及」のワークを参加者が体験し、アクティブ・ラーニングについての学びを深める研修会となりました。

<講演の概要>

Chapter 1：主体的学修分析から遠隔授業を見直してみる

- ・アクティブ・ラーニングに対する自己効力感
- ・本学の主体性分類構成比等の結果（他大学との比較や学科別の傾向）
- ・指導と主体性：遠隔授業との関連（2020年度春学期調査速報）

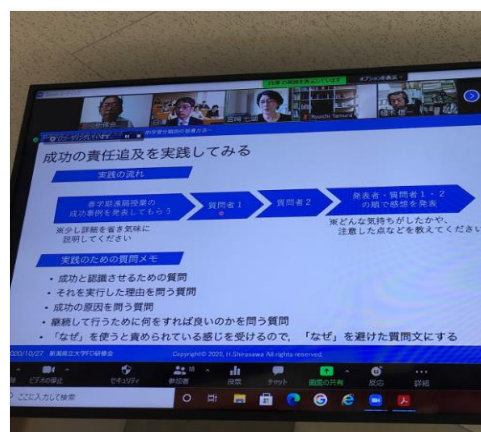
Chapter 2：遠隔授業で主体的学修を促す方法を考える

- ・行動分析学の観点から考える
- ・解決志向アプローチの観点から考える
- ・遠隔授業で主体的学習を促すには

Chapter 3：主体的学修を促す声掛けの実践

- ・成功の責任追及を実践してみる

参加者のうち1名の先生からご自身の授業実践についてお話しいただいた後、他の2名の先生から成功の理由等を問う質問をしていただくというワークを実践しました。



<研修会参加者アンケートから> 抜粋

1. 研修会の感想

- ・遠隔授業についての教員・学生のアンケート結果を踏まえ、授業の方法や学生への対応について行動分析学の観点からタイムリーなアドバイスがいただけ、とても有益でした。
- ・授業のやり方として勉強になりました。
- ・データを基に分析が行われており、主体性分類構成比を観て全学学科の特性に納得できた。「教員のフィードバックが大切。好ましい学修行動をしたときの成果ではなくて学修行動を褒める。”しっかりやったね”とか,”時間を確保したね”というフィードバックを小まめにかけてあげると良い”というアドバイスをいただき、とても良かったです。
- ・内容についてはとても良く、授業を行う際に非常に参考になると思う。前回の研修会の復習もできたので良かった。
- ・根拠が明確で説得力がありました。
- ・勉強になりました。とくに、学生の類型そしてオンライン授業履修時の行動の違いについてよく理解できました。
- ・専門的なお話を具体例を挙げて説明してくださったのでわかりやすかったです。

2. 講習会で学んだことを、今後どのように活かしたいと考えますか。

- ・学生の間違いばかり指摘しがちなので、学生へのポジティブなフィードバックをぜひ実践したいと思います。
- ・心理学に関する知識を活用したいと考えています。
- ・実技においては、上達のプロセスを教えているつもりではあったが、ビデオやYouTubeでの視聴、iPadを使っでの振り返りをするなどして、事前・事後教育の重要性を再確認した。まずは、動画撮影と編集を行いYouTubeにアップロードします。
- ・今学期に実践できそうなこととしては、提出した課題に対してポジティブなフィードバックを行う。課題を提出しない人には穏やかに提出を促す。授業中の発言等に対してポジティブなフィードバックを1秒でも早く行う。一連の行動をできるだけ個々の構成要素に細分化し評価する。
- ・学生が自ら意欲を引き出せるような演習方法の構築に活かしたいと思います。
- ・学生の特徴を鑑みて、授業設計をすべき、2課題へのフィードバックをより重視すべきと考えました
- ・「バースト行動」という現象とその対応については、新たな知見でした。経験的に、思い当たるシーンもあったので、今後留意していきたい。また、「成功の責任追及」について、意識して実践してみたいと思う。
- ・「行動の直後に称賛すると効果がある」、「成功の責任追及」が特に印象に残りました。対面授業で個人に対して実行するのは難しい面もありますが、クラス全体に対して行える場面もあると思うので、そのような機会をとらえて実行してみたいと思います。